

野鳥たより

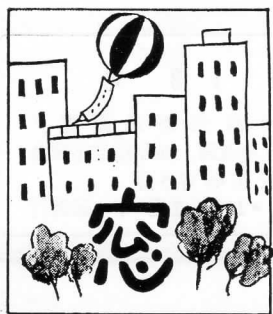
—北海道—

第 18 号

編集者 北海道野鳥愛護会
発行者 北海道国土緑化推進委員会
発行日 昭和49年5月
5月・8月・11月・2月 年4回発行



トウネン 鶴川海岸にて 昭和48年9月15日 撮影 入江智一



珍鳥の記録と鴨猟場

珍鳥の記録

最近、珍しい鳥の発見報告が続いている。“野鳥だより”にも本道での新記録をふくめて、いくつかの報告が寄せられている。これは本道だけの特異現象でなく、日本各地で見られる現象で、なかには“またか”といわれるものもあり、珍鳥が珍鳥でなくなりそうな現象も見られる。

これはまた、ただたんに珍しい鳥を見つけた、ということだけにとどまらず、新しい繁殖地の発見、従来定説化していた渡りの時期が現実とズレていることの発見などまで進んでおり、これからなに出るか興味深いものがある。

観察者の数の増加

この現象は、渡ってくる野鳥の種類が増えたことなどによるものとするより、各地での観察者の数が増え、従来、気付かれなかった現象が観察者の目に止るようになったと見るべきで、今後、観察者の数が増えることによって、珍しいものをみたという記録も増えるものと思われる。

観察者の増加は、専門的な教育を受け野鳥の研究等を職業とする、いわゆるプロの数よりも、野外での野鳥観察を楽しむだけのアマチュアの世界でいちじるしい。

このため、観察者の数は増えてはいるが、地域的な偏在が目立ち、絶対数が不足していることもあり、珍しい発見があったとしても、偶然その人の目に触れたというだけで、観察網というには程遠いのが現実である。

生態写真を写すこと

野鳥の観察者の増加に比例して、望遠レンズの普及も目覚ましいものがあり、優秀な作品が続々アマチュアによっても生み出されている。

とくに近年の新記録の確認は、生態写真によって裏付けられたものが多く、観察者の数と生態写真は相互に因果関係をもって増加している。

しかし、生態写真の撮影は野鳥にとって迷惑なことで、写真撮影のためならば、営巣箇所さえ破壊してしまう乱暴者は別にしても、勝手に侵入してくる人間に望遠レンズをつきつけられ、平穏な生活を乱される野鳥のこ

とを考慮の必要があり、生態写真撮影を目指す人々は、写欲を満足させることと引きかえに、野生鳥獣保護のためならかの努力をすべきであろう。

世間の動きにおくれなくするために

動物学のなかでも、特にチョウの研究ではアマチュアの力が大きな力となり、その進歩発展に貢献したといわれている。採取しやすく標本作成も比較的やすいチョウと、野鳥を同列に論ずることはできないが、野鳥の世界ではアマチュアの力は、ほとんど頼りにされていなかった。

この原因はいろいろあるだろうが、野鳥に関する基礎知識が普及されていなかったため、アマチュアの情報には不正確なものがあり、そのうえしばしば誇張されたりするなど、専門家にとるに足りないといわれてもやむを得ないものがあった。

しかし近年なにかと多忙になったのは人間世界だけでなく、野生鳥獣の世界も急速に変容しつつある。このなかには早急に保護をはからなければならないものがあるが、保護対策をたてるために必要な基礎資料が不足していることが多い。

世の中の動きにおくれなくするために、基礎資料を集積するための調査研究は急を要する。この現実に対処するためには、従来どおりプロとアマと別の世界で野生鳥獣に接してはなるまい。

プロとアマのつき合い

昨年と今年、北大大学院生の小川氏が中心になり、札幌周辺の鳥を記録する会が、日曜毎に場所をかえて行なわれた。プロである小川氏と、本会員を中心とするアマチュアの集団が現場で接触しあった。

このようなプロとアマの触れ合いによって、野鳥観察者の数が増え、質が向上することは観察網を丈夫にし、網の目より細くする素地を作ることになる。

従来、アマチュアがプロに、接することができたのは、講演会程度のもので、野外観察会でも開かれれば極上の方だった。これではプロに接することによって、アマチュアの素質向上を期待することはできない。

現場でプロとアマが触れ合うことによって、アマはプ

ロの知識を吸収することが可能になり、プロは観察網を構成する必要が生じたときのための、素材を確保することが可能になる。この意味で小川氏の札幌周辺の鳥を記録する会は、非常に大きな意義をもっている。

息 栖 の 鴨 場

今年2月下旬に機会を得て、鹿島工業地帯に隣接している、茨城県神栖町所在の息栖鴨猟場を見学することができた。鴨猟場は中央に広い池を作りカモを集めて給餌しておき、このカモを池の周辺に放射状にもうけられている、引堀という溝にさそいこみ捕獲することを目的として作られる施設である。

鴨猟場では、警戒心が強いカモを落ち着かせるために、平穏な環境を作ることが必要で、息栖の鴨場の総面積は約3万3千㎡で中央に約1万㎡の池を作り、池の周囲にはマツやタケなどによって林を造成し、カモが休息する池を外界から隔離している。さらに敷地の周囲にはイヌやネコなどの侵入を防ぐため溝を掘っている。

池のカモに人間の姿を見せることはタブーになっており、カモの様子を観察するのは大覗きという、池の岸に目立たないように作られた小屋の壁のすき間から、目だけ出して行なうようになっており、給餌も大覗きから竹筒（塩化ビニールパイプ）を水面に突き出し、この筒の中にヒエなどを注ぎ込み、水面に落としカモに与えるようにしている。

つまり鴨猟場の池は、カモにとって至れり尽せりの休息地になっており、大覗きから覗くとマガモ（絶対多数）オナガガモ（一部）ヒドリガモ・ハシビロガモ（ごく少数）などが数千羽、渡去直前の見事な生殖羽をきらめかして休んでいた。

保 護 と 捕 獲

鴨猟場によるカモの捕獲は、江戸時代大名の下屋敷に設けられたものからの流れを受け継いでおり、渡って来るカモを完全に保護し、そのうえで捕獲数を定める（渡来数の1割を捕獲するのが常道とのことだった。）猟法で、カモが安住することを前提条件としている。

厳密な意味で野生鳥獣の保護を考えるならば、結果的に捕獲したカモの生命を奪うことになるこのような施設は排訴されることになるだろう。

ところで、息栖の鴨猟場は鹿島工業地帯に隣接しており、地価は少なくとも3、3㎡当り2万円はするとのことである。3万3千㎡の地代がいくらになるものか計算はやめることにした。

シビアな保護論を押し進め鴨猟場が廃止されることになったら、この場所には工場が建つだろう、そうすると当然カモの群も渡って来ようがない。

息栖の鴨猟場の池に、多い年には1万羽のカモが渡っ

て来るとのことである。捕獲されるカモは渡来数の1割つまり1千羽ということになる。この犠牲によって残ったカモの生息環境が守られるのと、この同じ場所に工場が建ち彼等が完全に追い払われるのと、どちらが良いのかわからない、青空をバックに池から飛び立ち、鴨猟場の外に出ては直ぐ帰って来る短い飛翔を繰り返す、オナガガモの群を見ながら自問自答を繰り返した。

環 境 保 全 の た め に

我々の生活にうおいを持たせるために、緑の保全が重要なことは今さらいうまでもない。また人間のために保全される緑であっても、そこは野生鳥獣の生息場所としても利用される。鳥獣保護のため理想を掲げることはたやすく、鳥獣保護区の理想図をえがくこともそれほどむづかしいことではない。

しかし現実を考えた場合、理想的な鳥獣保護区はたやすく設定できるものではない。いささか逆説めくが鴨猟場のようなカモを捕獲することを目的とした保護区もあって良いような気がする。

とくに息栖の鴨猟場のように、工場化の波が押し寄せている現場では、カモの捕獲を否定することで鴨猟場が廃止されることになり、跡地が工場化しそれが緑の消失につながってしまう。この場合数歩ゆづつ、鴨猟場の経営を続けカモの捕獲を認めたらうで、鴨猟場をカモの休息地として、また人間にいいとやすらぎをもたらすための環境緑地として保全することを求めるのは、合理的なのだろうか、それとも現実に妥協し過ぎた考え方ということになるだろうか。



写 真 説 明

息栖鴨猟場のカモの群 茨城県神栖町
昭和49年2月22日 野村 梧郎

白鳥の偵察飛行について

(その意味するもの)

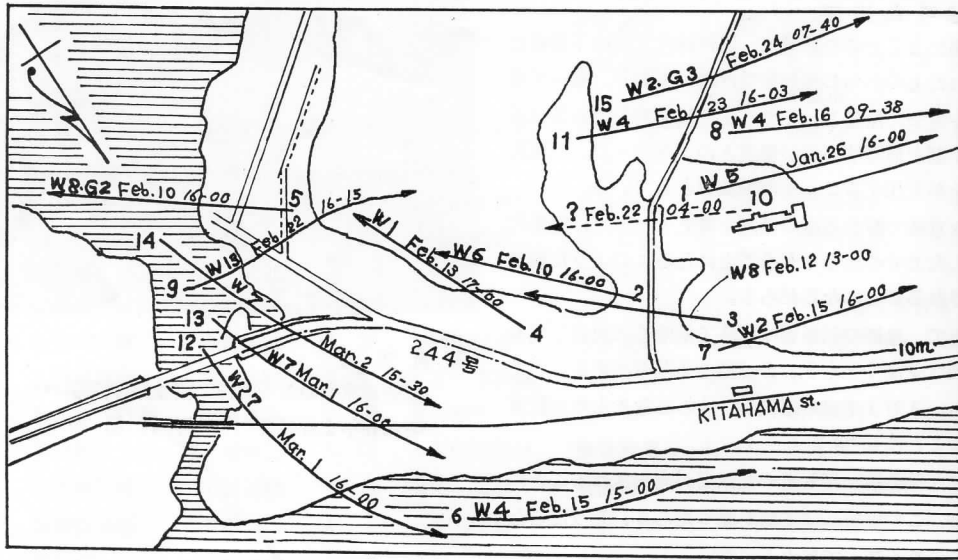
玉田 誠

1月も中ば頃になると第1図に示すように学校や北浜市街の上空を東行し西行する白鳥を目撃することが多くなります。又第2図に示すように結氷した湖面の雪上に翼を休めている姿を見掛けることもあり、山本文雄教諭や新田令氏によると波の穏やかな日には前浜の海面に憩っていることもあるということです。

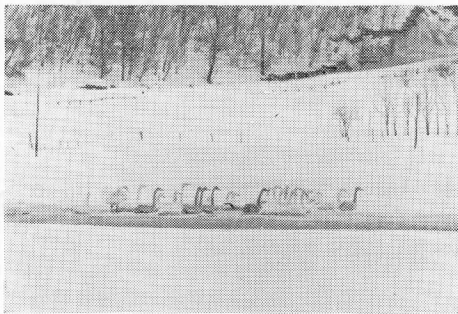
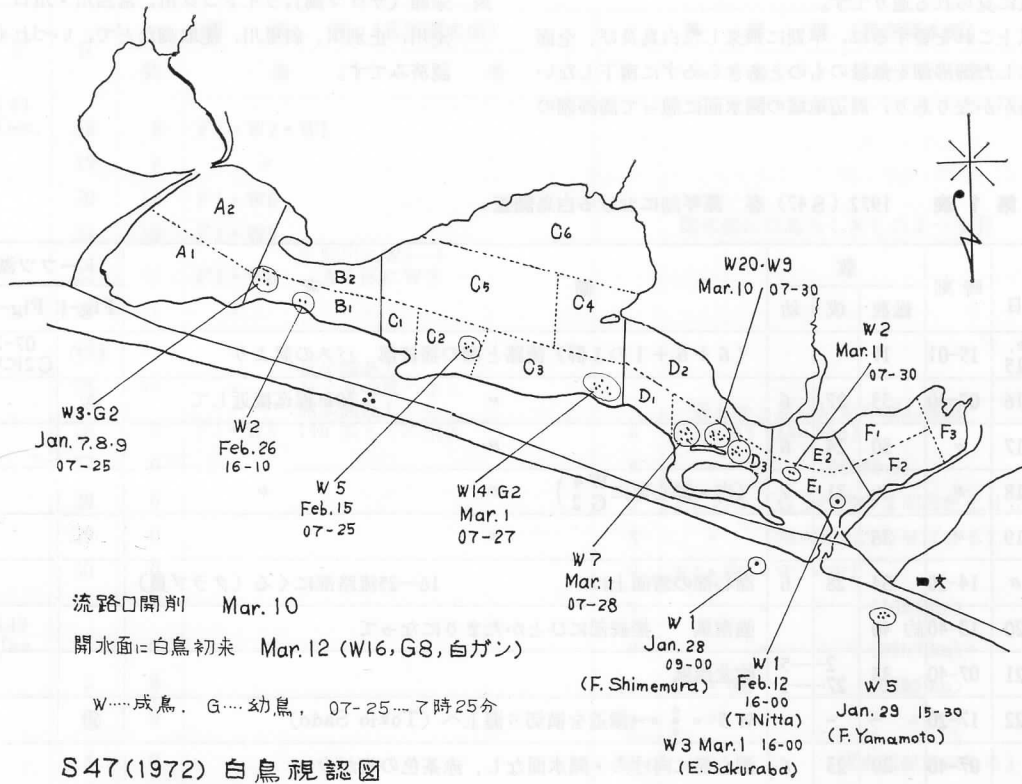
12月の中旬から下旬にかけて全面が結氷した濤沸湖に開水面ができるためには流路口を閉塞している漂砂を除去しなければなりません、この作業は人間の生活が本意ですからその必要性の有無と流水の接岸との関係もあって1月の中旬には除去される年もあれば、2月末、時によっては3月の中旬まで放置されていることもあります。開水面ができたのではないかと、飛来した白鳥は一面の雪氷原を見て、若しや近日中に水が出るのではないかと着地して待ってみるもの、Uターンしてもどるもの、或はそのまま濤沸湖を飛び越えて行くものなど様々であると思えますが、仮泊地から毎日のように様子を見にくらしい白鳥の希望と落胆の飛行を私達は「白鳥の偵察飛行」といっているわけです。したがって流路口の開削のおそい年ほど往き来する白鳥の目撃例が多いように思えます。

さて学校周辺の上空を白鳥が東行し西行するということは西方のどこかに開水面が存在することを意味します。濤沸湖にまだ開水面が出現しない頃隣接する藻琴湖に白鳥が憩っている事実を指摘されたのは札幌市の北陽中学校に転じた平野宏希教諭でした。網走市街から通勤していた同教諭は昭和46年2月3日の朝、流路に沿う国道から成鳥6羽、幼鳥3羽の一グループの白鳥を確認したことを報じたのでした。網走市の佐藤博氏によればかつては藻琴湖にもかなりの数の白鳥が憩ったそうですが養殖シジミを食害するとかで追払った為にだんだん寄りつなくなつたということです。同湖の流路口は濤沸湖のそれのように漂砂によって閉塞されるということではなく、年によっては多少の差はありますが、流水が接岸するまでは開水面を保持しているようなので早々と飛来した白鳥にとって藻琴湖の存在意義は極めて大きなものがあると考えます。しかし、先に述べた食害問題のほかにも湖及びその周囲は鳥獣保護区に指定されていない為に、ハンターに撃たれないまでも、その発砲音に戦かなければならないようで本年1月8日の午後私が観察中開水面に憩っていた17羽の白鳥は200m程離れた湖岸で発砲した為中央部の雪面に退避を余儀なくされました。昭

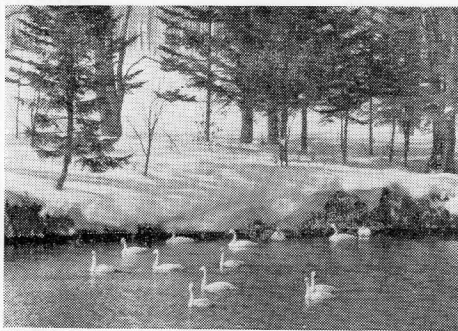
第 1 図



白鳥の偵察飛行 S. 47



モト湖に憩う白鳥 S 47. 2. 18



網走川に憩う白鳥 S 47. 3. 18

和47年春の同湖における観察記録を第1表としてまとめてみました。

また、目撃例は把握されていませんがこの様な偵察飛行は浜小清水市街付近でも見られるものと思われます。その理由は斜里町から通勤しておられる示村富士子教諭が車窓から斜里川の川口近い釧網線の鉄橋上手に憩っている白鳥を目撃しているからで、いたり、いなくなったり、増減をくり返しながら濤沸湖の解氷がはじまると姿を消しているからです。同教諭は又斜里と浜小清水の間の止別川にも白鳥が憩っていることを昭和48年の2月27日の朝発見し通報されたので3月1日の午後現地へ赴きW4羽、他を確認しましたが斜里の方へ飛行する一群成鳥3羽も見ることができました。

一方濤沸湖が全面結氷するぎりぎりまでねばっているかに見える白鳥たちは南下することをせずに周辺の開水面で憩う事実も昨年末から本年にかけて明かにすることができました。即ち第2表に示すように12月25日まで北浜の開水面に憩っていた成鳥2羽、幼鳥3羽の一家族他成鳥6羽の白鳥群は同夜半流路の閉塞に因る開水面の結氷の為に26日14時までに西空を飛去しました。そして27日の朝前記一家族5羽と成鳥3羽が藻琴湖に憩っているのを確認したのです。この5羽の一家族は、やや小柄であること、幼鳥の2羽が4分程白色化していることなど

から見間違えることはありません。その前後の状況は第2表に見られる通りです。

以上これを要するに、早期に飛来した白鳥及び、全面結氷した瀧沸湖を無縁のものとかきめずに南下しない白鳥がかなりあり、周辺地域の開水面に憩って瀧沸湖の

解氷を待っているものと考えられるようになります。

※ 柴浦（サロマ湖）、ライトコロ川、常呂川・川口 網走川、止別川、斜里川、能取湖などで、いづれも確認済みです。

第 1 表 1972 (S47) 春 藻琴湖における白鳥調査

月 日	時刻	数			備 考	トーフツ湖	
		総数	成	幼		Fig-1	Fig-2
Feb. 15	15-01	11			(6+6+1の3群) 流路と湖の接続部 バスの窓より	⑥⑦	07-25 C2にW5
	16 07-40	33	27	6	” 30m程迄接近して	⑧	
	17 ”	30	24	6	” ”		
	18 ”	38	31	7	(内・湖心部に W4 G2) ” ”		
	19 ”	36			”		
	” 14-20	34	28	6	湖心部の雪面上に 16-25流路部にくる(クラブ員)		
	20 13-40	約 40			強南風 接続部にひとかたまりになって		
	21 07-40	35	27-5	27-1	強北西風		
	22 17-20	-	-	-	W5 〇→国道を横切り海上へ(Tokio Sado)	⑩	
23	07-40	29	23	6	湖心部に向け去・開水面なし、赤茶色の糞が少々		
	16-05	約 35			湖心部に		
	16-05	-	-	-	W4 神社方向より来・接続部に着・直ぐ離昇モコト市街へ去	⑪	} Fig-1
	16-30	-	-	-	湖心部のもの2群で来・11羽湖心に去 29羽海上に出北西へ去		
24 07-45 08-05	0			(Koki Hirano, Tokio Sado)			
25 07-40	0			開水面全くなし・シンキローを見る・常呂川川口に約30羽憩うとき			
26 07-45 08-05	0			(Hirano & Sado)・12-40…0羽 (Ando & Takeuchi…クラブ員)		16-10 B1東にW2着	
27 15-40	6	2	4	(常呂川に行くも0羽・昨日迄は30羽程いたと中学生の話)			
28				吹 雪			
29				(Miwako Tabuchi)		16-30 W3 瀧沸湖へ	
May. 1	07-45 08-05	約 16			(Hirano & Sado)	⑬	C3に16 D3にW7 E1にW3
	2				吹 雪 (網走川に憩うとNHK-TV)	⑭	
	3				吹 雪		
	4 13-05	0					
	5	0					
	6 13-05	0			(K. Fukuda & K. Konishi…持志)		
	7 08-00	0			(12-35, 網走川にW13を確認)		
	8 07-50	0			(12-50, 網走川にW13, 佐呂間湖・柴浦にW22, G5を確認)		

時分

C3等は瀧沸湖区分

第 2 表

月	日	濤 沸 湖 (E区開水面)		藻 琴 湖 (残存開水面)		
		数	備 考	数	備 考	
S48 Dec.	18	8	F1・W2・W1			
	19	8	"			
	20	11	F1・W6			
	21	10	F1・W5		開水面に白鳥らしきもの2~3羽	
	22	11	F1・W6	止別川にW3~4 A1区にW5		
	23	11	"			
	24	11	"			
	25	11	"	夜小雪あり Nよりの風つよし 開水面なし		
	26	8	F1・W3	14h頃までに飛去		
	27	0			8	若しやと思ひ足をのばし確認 F1・W3 (14h20m)
	28	0			8	" (08h50m)
	29	0			5	F1のみ (G3の内の2羽白色化目立)
	30	0			5	" (開水面かなりせばまる)
	31	0			9	F1・W1・W2・W1
	S49 Jan.	1	0		9	" (16h10m)
2		0		9	" (08h50m)	
3		0		11	F1・W6 (08h50m)	
4		0		11	" (") (")	
5		0		11	" (開水面線状になる)	
備 考		F1...W2+G3の一家, 特記外の観察時刻は07h40m				
				?	欠 測	

千歳のオジロワシ

美々畜肉処理場で観察された
オジロワシの個体数

金山哲夫

千歳・苫小牧の山野でオジロワシを見かけるのはそう稀ではないが、人家の近くにきまって飛来するのは、私にとっては驚きである。

以前から、友人のハンター諸氏の話で、この付近でオジロワシやらノスリなどの猛禽類がしばしば観察されることは知っていたし、松前家五大慶広が、時の権力者豊臣秀吉に鷹狩用のタカを献上したり、矢羽になるワシカ類の尾羽を献上するなど、今の千歳を中心とする一帯を「鷹場」と名づけて厳しく管理していたことなどは、いくつかの文献で知っていた。それが一昨年2月、小説家の長見義三氏・小山政弘氏と共に千歳市郊外美々の市営畜肉処理場で一度に9羽ものオジロワシを観察して以来、本来は考古学を志す者である筈の私はオジロワシの観察にすっかり心を奪われた形になってしまったのである。

月 日	個 体 数	確 認 時 間
3. 12	6	10:30~11:30
13	6	10:00~14:00
14	6	10:00~14:00
15	3	12:00~13:00
16	4	10:00~14:00
17	2	9:00~13:00
18	2	13:30
19	5	12:00
20	1	10:00
21	2	10:30
26	5	10:00
27	3	10:00
28	5	10:00

数百羽ものトビやハシボソカラスの群を尻目に、晴空をのすオジロワシの心憎いばかりの勇姿は、理屈ぬきに私を魅了させてしまったわけである。

昨年は双眼鏡を買入して準備していたが、3月をまわってもオジロワシ飛来の情報はとうとう入らなかつた。見られないとなると無性に見たくなるのが人情というものだが、昨年一年間は遂に一羽のオジロワシも観察できなかった。きけば、晩秋の支笏湖付近で千歳野鳥の会の中学生在が一羽を観察したとのことであった。

今年に入って2月12日、昨年から情報提供を約束してくださっていた市営牧場の管理人の方から「オジロワシ飛来」の電話を受け、仕事も放り出して畜肉処理場の現場に急行してみると、たしかに数羽のオジロワシが頭上を雄々しく飛行中であつた。2年ぶりに目にかかるオジロワシの姿が青空にはえて実に美しく感じられた。

今シーズンに、私が畜肉処理場で観察したオジロワシ

の個体数を表にまとめてみた。皆様の参考になれば幸いである。尚、3月2日には、千歳市街から西に7kmほど行ったところにあるサケ・マス孵化場付近で、ミズナラの大木にとまっているオジロワシの成鳥を観察したが、土地の識者として知られるフジヤグリーン・サービスの関氏によれば、この鳥はいつも同じ時間に同じ場所に来る由。ちなみに、同氏の推察では支笏湖の山中に営巣の可能性もあるのではないかと。

どうやら、私の野鳥観察はオジロワシ馬鹿から、さらに他の鳥へと拡大されつつありそうだ。過日買入したニコマートと500ミリレンズが、目下ヤマセミの営巣を狙っている。

時折うづく神経痛の足で、家族のあきれ顔を背に、野鳥の観察に熱が入りはじめた今日この頃である。小山氏の紹介で本年度から一緒に野鳥の勉強をさせていただきます。(千歳市)

畑地のオオハクチョウ

小山政弘



千歳根志越にて

1974. 2. 17 入江義智撮影

水辺ではなくて、付近に人家もあり、車道もある畑で越冬するオオハクチョウの観察例を紹介します。

場所は、千歳市街から東に4km程の根志越。旧オサツ沼干拓跡のトウモロコシ畑です。

付近には、巾の広い用水路や干拓でとり残された沼地がありますから、厳密な意味では水辺と無縁とはいえませんが、今までウトナイだとか風蓮湖だとか網走湖だとかでばかり観察してきたオオハクチョウが、今回、こんな場所で生活しているのを観察して、少し驚いた次第です。

確認された個体数は表に示す通りですが、昼間はもっぱら昼寝で、夜間か、日没、日の出頃に活動するようです。群で昼寝する場所は、見晴らしのよい雪原で、毎日

5~10mずつ移動しているようで、最初にこの場所を確認した2月17日には、既に3日前迄の踏み跡がありました。その頃の天気は、殆んど降雪がありませんでしたから、この集団がこの地点を安息の場所を選んだのは、2月14日だとも考えられますが、明らかではありません。3月3日に、この場所で観察した直後にウトナイ沼に出かけてみましたが、その道すがら、車中からは、オオハクチョウの移動が全く観察できませんでしたから、その日、200羽前後確認されたウトナイ沼で生活しているオオハクチョウの群とは、関係があるとしても、根志越のグループは、ウトナイのグループとは別だとも考えられます。

千歳根志越のオオハクチョウ (1974)

月 日	個 体 数	備 考
2月17日	5 2	幼鳥 12
18日	4 3	
26日	4 2	
27日	4 3	
3月2日	5	
3日	5 8	幼鳥 8
17日	3 2	終 認

続 野鳥のまち作り

川 村 芳 次

この前述した「野鳥のまち作り」の構想にもとづいて、昨年手がけた乏しい経験を披瀝し、一層のご指導を仰がんとするものである。

まちの野鳥の動き

昨年1月2日、夜来のみぞれで雪がしっとりとし、湿りもやのたて込めた暖かな朝であったが「アッ! キジが歩いている」早速窓越しにカメラのシャッターを切ったがキジは既に引き返すところであった。そして近くのオンコの陰から潜るようになって出て来た別の2羽と連れだって飛び去って行った。そしてその翌々日の4日の朝またしても1番が訪れてくれた。新年早々のことでもあり「今年はどうやら幸先きがよさそうだ」と独りほくそ笑んだことであった。

市内でもシジュウカラ、ムクドリなどの野鳥の姿をよく見かけた。特にキジが住まいのそばにやって来た話はよく聞いた。庭に巣作りをして卵を産んでいたと言う珍しいケースなどもあった。また野鳥が殖えたためか悪戯児がゴムテープで狙っているぞとお母さん方に気をもませて、学校などを煩わしたいきさつもあった。

餌 づ け

餌づけのむつかしさは聞いていたが、手軽な方法で始めて見た。それは大きなボケタリンゴやミカンをビニールの網袋に入れて裏庭の木に吊るし、そのすぐ近くに豚の脂を針金でひっかけて置いた。

4、5日経つとまづシジュウカラが啄み始め、日を経るに連れて数が増え、ムクドリや、ヒヨドリなども来るようになった。餌場拡張を思いつき表の庭にも設けたが、ここも繁盛した。別段トラブルもなく仲良くせせと啄んでいる様は可愛いものである。ただヒヨドリは驚くべき欲たかりで他の鳥が大変迷惑していた。ヒヨドリは特にミカンが好きで食べ終わった後も袋のそばを離れようとせず、風の日も雪の日も、他を寄せつけず頑張っていた。

またキジやカケスの為めにと、トウモロコシを容器に入れて出して置いたところ、毎日のように奇麗に空にな

っていたが、キジもカケスもやって来た気配は全然ないので見張っていたところ、その犯人はシジュウカラであった。彼等が入り代り立ち代り啜っては飛び去って行くのである。偶々直ぐそばの枝で呑もうとして四苦八苦しているのを見た。かねてからシジュウカラは大食家であることは聞いていたが実は驚き入った。

巣箱と巣づくり

当市には毎年巣箱をかけておおいに成果を上げている小学校があるので、そこの大垣内先生の指導を煩わして巣箱を作ることにした。規格によって木工業者に作らせてついでに市内の野鳥好きの知友に配ることにした。

私のところでは裏に3個、表に1個を取りつけたが、入居は3個であった。もっともこの空家の1個にも、ときどきムクドリが訪れたが、入口が小さかったので入れなかったらしい。口を広げてやったが既に時期遅れであった。入居者はムクドリが2個、スズメが1個であった。市内の知友に配ったものの状況は、比較的環境のよいかつ野鳥の趣味者を選んだが、そのやり方はその人委せであったので結果はまちまちで必ずしも入居のぶどまりはよいとは言えないが、交通頻繁で騒音の激しい庭先の箱に入ったものなどもあり。そのひとつひとつについて調査したら面白い結果が出ると思う。この分なら皮切りの初年としては先づ先づ成功の部類であろう。

巣だちの奏曲

朝早くから夕遅くまで降っても照っても雛鳥のために餌運びをする親鳥の努力は涙ぐましいものがある。その甲斐あって雛の啼き声は日一日と勢いづき、やがて巣立ちの気配が見え啼き声は内と外とで一段と騒がしい。その翌朝であった。余りの騒々しさに見上げると雛は箱を飛び出し箱の回りで親子諸共それに一族郎党が加わり祝福の大奏曲である。もっとも肥立ちが悪いのか、1羽は箱から顔をのぞかせて目をばちくりさせていた。このため全部のものが飛びたつことが出来ず、あせりの騒々しさであったのかも知れない。かくして全部がうちそろって完全に飛びたつたのは、それから2日ばかり経った後のことであった。

その後はひっそり閑とし、ときたまさまざまな野鳥の声を聞くだけで静まりかえり気の抜けたような感じであった。

野鳥のまち作りの進め方

今のところ会など仰々しいものは考えず、ただ興味を持つ幾人かがわが庭で四季を楽しむものを考え、ときに自慢話に花を咲かせる程度のものにし気長に根気よく浸透させて行くようにしたらどうか。そうした皆の実績によって次第に輪を広げて行こうじゃないかと話し合っている。

◆ 夏鳥の初認

◇コチドリ		4. 15 増毛町	高橋明雄	4. 16 旭川市	川島順二
4. 13 恵庭	小山政弘	5. 5 旭川市神楽岡	山田良造	◇ツバメ	
◇イソシギ		〃 上磯町茂辺地	森口和明	4. 5 東利尻町鴛泊	梅木賢俊
4. 8 札幌市手稲西野	野村梧郎	5. 9 札幌市界川	平井さち子	4. 30 札幌市	新宮康生
4. 10 〃 白石北郷	新宮康生	5. 10 苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 5 千歳市	入江義智
4. 13 〃 真駒内	新妻 博	5. 12 千歳市	入江義智	5. 15 苫小牧北大演習林	松岡茂
4. 24 東利尻町鴛泊	梅木賢俊	〃 別海町西春別	栗野武夫	◇イワツバメ	
◇ヤマシギ		5. 14 名寄市	山崎治行	4. 13 札幌市真駒内	新妻 博
4. 19 苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 18 羅臼町	広野孝男	4. 15 愛別町	山田良造
5. 18 札幌市真駒内	新妻 博	5. 23 上士幌町糠平	川辺百樹	4. 22 上士幌町糠平	川辺百樹
◇オオシシギ		◇キジバト		4. 24 東利尻町鴛泊	梅木賢俊
4. 19 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵	3. 20 七飯町藤城	森口和明	4. 30 上磯町	森口和明
4. 20 旭川市	川島順二	4. 6 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵	5. 2 名寄市知恵文	山崎治行
〃 別海町泉川	三浦二郎	〃 札幌市西野	野村梧郎	5. 4 増毛町暑寒沢	高橋明雄
4. 21 苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 7 千歳市	入江義智	◇キセキレイ	
4. 23 千才市	入江義智	4. 10 苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 28 札幌市真駒内	新妻 博
〃 名寄市	山崎治行	4. 12 旭川市	川島順二	4. 29 千才市	入江義智
4. 24 旭川市春光台	山田良造	4. 13 名寄市緑ヶ岡	山崎治行	◇ハクセキレイ	
〃 東利尻町鴛泊	梅木賢俊	4. 14 札幌市真駒内	新妻 博	3. 28 別海町泉川	三浦二郎
4. 28 札幌市真駒内	新妻 博	4. 15 増毛町暑寒沢	高橋明雄	3. 30 羅臼町	広野孝男
〃 七飯町大沼	森口和明	4. 18 上士幌町糠平	川辺百樹	◇ビンズイ	
5. 4 増毛町暑寒沢	高橋明雄	4. 24 東利尻町鴛泊	梅木賢俊	4. 11 苫小牧北大演習林	松岡茂
◇ハリオアマツバメ		◇アマツバメ		4. 30 別海町泉川	三浦二郎
5. 21 苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 16 苫小牧北大演習林	松岡茂	◇モズ	
5. 28 札幌市真駒内	新妻 博	5. 21 札幌市真駒内	新妻 博	3. 31 函館市函館山	森口和明
◇コノハズク		◇カワセミ		4. 9 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵
5. 9 苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 28 札幌市真駒内	新妻 博	4. 15 増毛町暑寒沢	高橋明雄
◇ジュウイチ		〃 江別市野幌	百武・柳沢	4. 16 旭川市	川島順二
6. 9 札幌市真駒内	新妻 博	5. 5 平取町沙流川川口	〃	4. 17 上士幌町糠平	川辺百樹
◇カッコウ		5. 6 千歳市	入江義智	〃 恵庭市	小山政弘
5. 11 石狩町茨戸	中田圭亮	〃 石狩町茨戸	新宮康生	4. 18 苫小牧北大演習林	松岡茂
5. 14 名寄市内淵	山崎治行	5. 11 羅臼川	広野孝男	4. 20 別海町泉川	三浦二郎
5. 15 厚沢部町	森口和明	◇アリスイ		〃 名寄市名寄公園	山崎治行
5. 16 札幌市真駒内	新妻 博	4. 20 札幌市真駒内	新妻 博	4. 23 千歳市	入江義智
〃 〃 界川	平井さち子	4. 25 別海町泉川	三浦二郎	4. 30 利尻島	梅木賢俊
5. 17 増毛町暑寒沢	高橋明雄	〃 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵	◇ノゴマ	
〃 恵庭市	小山政弘	4. 28 利尻島鴛泊	梅木賢俊	4. 28 利尻島鴛泊	梅木賢俊
〃 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵	〃 旭川市	川島順二	5. 19 別海町泉川	三浦二郎
〃 江別市大麻	中島庄一	◇ヒバリ		◇コルリ	
〃 札幌市西野	野村梧郎	3. 27 東利尻町鴛泊	梅木賢俊	5. 2 苫小牧北大演習林	松岡茂
5. 18 旭川市江丹別	山田良造	3. 28 根室市西和田	渡部 努	5. 13 札幌市真駒内	新妻 博
〃 苫小牧北大演習林	松岡茂	3. 30 長万部町	森口和明	◇ノビタキ	
5. 21 上士幌町糠平	川辺百樹	3. 31 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵	4. 5 東利尻町	梅木賢俊
5. 22 別海町泉川	三浦二郎	4. 3 増毛町暑寒沢	高橋明雄	4. 13 恵庭市	小山政弘
5. 28 羅臼町	広野孝男	4. 4 別海町泉川	三浦二郎	4. 16 美瑛市光珠内	藤巻裕蔵
◇ツツドリ		4. 7 千歳市	入江義智	〃 別海町泉川	三浦二郎
		〃 名寄市栄	山崎治行	4. 17 上士幌町糠平	川辺百樹
				4. 18 苫小牧北大演習林	松岡茂

4. 19	名寄市日進	山崎治行	5. 30	江別市大麻	百武 充	4. 16	美唄市光珠内	藤巻裕蔵
4. 20	札幌市白石	新宮康生	6. 9	札幌市真駒内	新妻 博	4. 17	上士幌町糠平	川辺百樹
4. 21	旭川市	川島順二	〃	上磯町	森口和明	4. 18	別海町泉川	三浦二郎
4. 22	羅臼町	広野孝男	◇メボソムシクイ			4. 19	苫小牧北大演習林	松岡茂
5. 4	増毛町暑寒沢	高橋明雄	6. 2	江別市大麻	百武 充	4. 20	名寄市名寄公園	山崎治行
5. 21	黒松内町	森口和明	◇エゾムシクイ			〃	札幌市真駒内	新妻 博
◇トラツグミ			5. 6	羅臼町	広野孝男	4. 21	旭川市	川島順二
4. 10	苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 7	苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 25	千歳市	入江義智
4. 21	札幌市真駒内	新妻 博	5. 8	別海町泉川	三浦二郎	〃	羅臼町	広野孝男
4. 24	羅臼町	広野孝男	◇センダイムシクイ			4. 27	東利尻町鴛泊	梅木賢俊
◇クロツグミ			5. 2	苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 28	七飯町大沼	森口和明
4. 17	上士幌町糠平	川辺百樹	5. 6	羅臼町	広野孝男	◇クロジ		
4. 19	美唄市光珠内	藤巻裕蔵	5. 10	旭川市	川島順二	5. 2	苫小牧北大演習林	松岡茂
4. 20	札幌市真駒内	新妻 博	5. 12	千歳市	入江義智	5. 14	羅臼町	広野孝男
4. 23	苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 13	美唄市光珠内	藤巻裕蔵	◇オオジュリン		
4. 28	名寄市名寄公園	山崎治行	〃	札幌市真駒内	新妻 博	4. 19	利尻島鴛泊	梅木賢俊
5. 4	増毛町暑寒沢	高橋明雄	5. 17	別海町泉川	三浦二郎	4. 21	旭川市内	川島順二
5. 7	函館市函館山	森口和明	◇キビタキ			4. 28	札幌市白石	新宮康生
5. 12	千歳市	入江義智	5. 6	苫小牧北大演習林	松岡茂	◇カワラヒワ		
◇アカハラ			5. 11	札幌市真駒内	新妻 博	3. 30	美唄市光珠内	藤巻裕蔵
4. 20	札幌市真駒内	新妻 博	5. 12	千才市	入江義智	4. 3	増毛町暑寒沢	高橋明雄
4. 24	千才市	入江義智	◇オオルリ			4. 7	旭川市	川島順二
4. 28	旭川市	川島順二	4. 23	利尻島鴛泊	梅木賢俊	〃	名寄市名寄公園	山崎治行
4. 30	苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 27	苫小牧北大演習林	松岡茂	〃	札幌市真駒内	新妻 博
5. 10	羅臼町	広野孝男	5. 10	旭川市	川島順二	4. 8	東利尻町鴛泊	梅木賢俊
◇ヤブサメ			5. 12	千才市	入江義智	4. 17	上士幌町糠平	川辺百樹
4. 21	札幌市真駒内	新妻 博	5. 18	羅臼町	広野孝男	〃	七飯町大沼	森口和明
5. 12	千才市	入江義智	◇メジロ			◇ベニマシコ		
◇ウグイス			5. 2	苫小牧北大演習林	松岡茂	4. 12	別海町泉川	三浦二郎
4. 19	苫小牧北大演習林	松岡茂	5. 13	札幌市真駒内	新妻 博	4. 13	標津町薫別	沢向憲一
4. 23	別海町泉川	三浦二郎	◇ホオジロ			4. 23	羅臼町	広野孝男
4. 24	東利尻町鴛泊	梅木賢俊	4. 5	羅臼町	広野孝男	4. 24	利尻島鴛泊	梅木賢俊
4. 27	上士幌町糠平	川辺百樹	4. 20	札幌市真駒内	新妻 博	◇コムクドリ		
〃	札幌市西野	野村梧郎	4. 20	美唄市光珠内	藤巻裕蔵	4. 28	江別市大麻	百武 充
4. 28	〃 真駒内	新妻 博	4. 24	千才市	入江義智	5. 3	旭川市内	川島順二
5. 3	羅臼町	広野孝男	◇ホオアカ			〃	札幌市白石北郷	新宮康生
5. 4	増毛町暑寒沢	高橋明雄	4. 25	美唄市光珠内	藤巻裕蔵	5. 14	別海町泉川	三浦二郎
〃	名寄市名寄公園	山崎治行	4. 28	札幌市真駒内	新妻 博	◇ムクドリ		
5. 7	函館市函館山	森口和明	〃	利尻島鴛泊	梅木賢俊	4. 4	別海町泉川	三浦二郎
5. 12	千歳市	入江義智	5. 6	札幌市北郷	新宮康生	〃	利尻島鴛泊	梅木賢俊
◇エゾセンニュウ			◇シマアオジ					
4. 23	名寄市緑ヶ岡	山崎治行	5. 16	別海町泉川	三浦二郎			
4. 27	上士幌町糠平	川辺百樹	◇アオジ					
5. 4	増毛町暑寒沢	高橋明雄	4. 15	増毛町暑寒沢	高橋明雄			

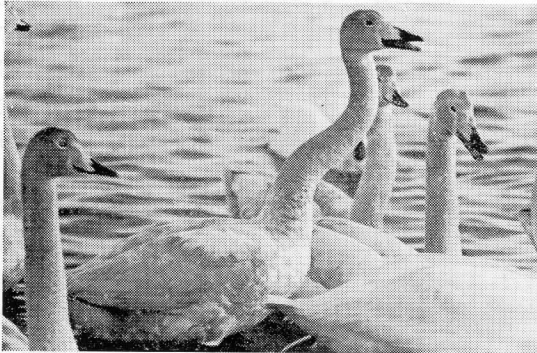
夏鳥の初認記録をまとめました。報告を寄せて下さった皆様方に厚く御礼申し上げます。なお函館の森口さんからは、定期調査の際確認した記録なので、渡来時点と

初認の間にズレがあると思う、との御連絡がありました。森口さんが認められた日という意味で記録にとどめさせていただきますので附記します。

ハクチョウと子供たち

網走市立北浜小中学校

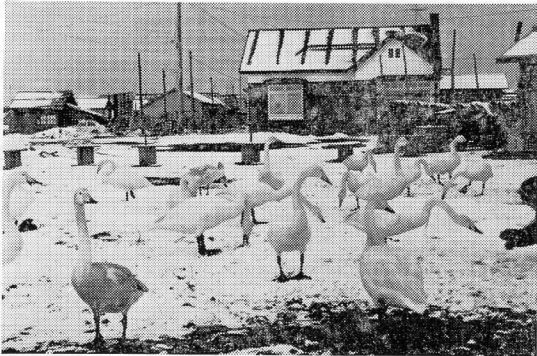
(写真撮影 玉田 誠)



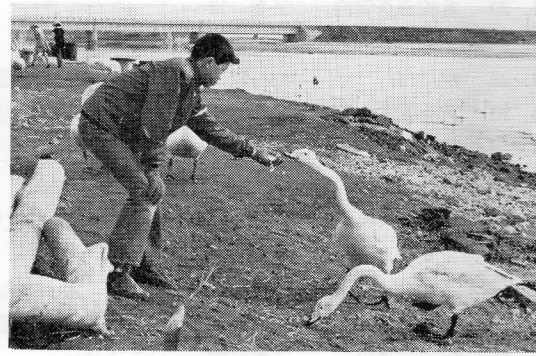
1. 真中の幼鳥とそのすぐ右の幼鳥の首が変ですね。成鳥2羽、幼鳥5羽の家族のうち、幼鳥3羽がときどきこんなふう首を曲げました。(昭和49. 4. 6)



3. 生徒と仲良しになり、ハクチョウの方からそばに来るようになりました。(昭和49. 4. 6)



2. 1月30日に濤沸湖に姿を見せたハクチョウは、4月に入ってからはどんどん上陸するようになり、60羽を越えたこともありました。(昭和49. 4. 3)



4. 上陸して生徒を待っているハクチョウもできるようになりました。好物のデントコーンをもらっている親子です。(昭和49. 4. 13)

《事務局だより》

☆ ずいぶんおそくなってしましまして申し訳ありませんが、野鳥だより第18号をお届けします。なにごとにもずるずるおくらせるのは良くありません。直ちに次号の編集にとりかかり、これからはおくれを出さないようにします。

☆ 本会もいろいろな意味で曲り角にさしかかっています。野鳥だよりの発行がおくれたのもその象徴のひとつといえませんがありません。時間をかけてなにかをやるには、転機・脱皮のときをつか

む必要があると思います。本会がいまさしかかった曲り角を、発展の機会としてとらえるべきだと思います。事務局も努力しますので会員皆様の御協力を御願いたします。

☆ 会費の納入方法について、できるだけ郵便振替で送ってください。(小樽18287号 北海道野鳥愛護会) 現金の取扱いはなにかと不便なものです。

野鳥だよりの原稿を送って下さい。身近な鳥の話 珍しい鳥を見た記録のほか、野鳥保護にたいする主張、考え方などなんでも結構です。特に新人の投稿を待っています。